

## 【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演題：重度歯周病における咬合再構成

—歯周病の経過観察中にインプラントを応用した1例—

演者：長野靖弘

日時：2012年3月19日

Keywords

1. 歯周補綴
2. メインテナンス
3. インプラントによる咬合支持

抄録

歯周病の進行した症例では抜歯後の咬合支持の回復が治療後の経過を左右する重要な因子です。しかし、重度歯周病の患者は、骨吸収の進行や口腔内環境の不良のためインプラントによる咬合支持の回復が困難であることが多い。今回、重度歯周病の患者に対し、歯周治療を行い、メインテナンス中にインプラントによる追加の治療を行った経過症例を発表します。

患者は1999年4月2日、左上56部の自発痛と前歯部の審美的改善を主訴として来院しました。重度の歯周病のため外科処置を含む歯周病治療を行った後、歯周補綴を行いました。2年間のメインテナンス中に上顎左右7の腫脹と排膿を訴え、保存不可能と判断し上顎左右67にインプラント治療、二次カリエスのため全体の再補綴を行いました。右上のインプラント治療から約3年半後、対合歯の右下6が保存不能となったためブリッジによる修復を行いました。

1～2か月毎のメインテナンスで3年経過。インプラント周囲炎等の異常所見や自覚症状もなく患者は満足していますが、プラークコントロール不良時等、下顎臼歯部に発赤や軽い動揺が見られる場合もあり、インプラントが対合に与える影響も考えながら、また、歯周病の進行を管理下に置き、咬合調整やデブライドメントで対応しています。

諸先生方のご指導お願いします。